
保健看護学研究法

宮 井 信 行 教授

増 田 匡 裕 教授

1 年次前期・必修

鹿 村 眞理子 非常勤講師

2 単位・30 時間

【概要・目標】

人のライフステージに応じた健康支援に関する研究方法の現状と課題を明らかにする。また、健康支援や生活の質（QOL）の向上を目指した EBM(N)の確立手法や生活支援に関する多角的な評価方法について探求するとともに、データベースの作成や活用方法について具体的に検討し、質的研究・量的研究の理解力や創造力を育成する。

質的研究法では、各研究手法の特徴とその理論的背景について学び、ディスカッションを通して研究論文をクリティークする能力を高めることを目標とする。また、量的研究法では、量的研究の計画立案・実施、統計解析の方法や解釈、論文における記述方法とともに、心理測定法の理論的背景について学び、クリティークする能力を高める。さらに、多変量解析などを中心とした統計モデルの実践的な使用を通して分析手法を獲得することを目標とする。

さらに量的・質的を合わせた混合法についても理解できるようになることも目標である。

【授業内容のスケジュール】**(担当)**

- | | |
|---|----|
| 1) 保健看護研究法概論 | 宮井 |
| 2) 質的研究方法の概要と各分析方法の特徴 | 鹿村 |
| 3) 質的研究手法における理論的背景 | 鹿村 |
| 4) 質的研究手法における記述方法 | 鹿村 |
| 5) 6) 質的研究論文のクリティーク | 鹿村 |
| 7) 量的研究の基礎理論 | 宮井 |
| 8) 量的研究のデザインと特徴 | 宮井 |
| 9) 量的研究の計画立案と実施 | 宮井 |
| 10) 量的統計解析の方法と解釈、論文における記述方法 | 宮井 |
| 11) 量的統計解析の実践（多変量解析などの統計的手法） | 宮井 |
| 12) 量的研究とエビデンスの活用 | 宮井 |
| 13) 混合法としての Q 方法論：概説 | 増田 |
| 14) Q 方法論実習 | 増田 |
| 15) 大学院生ワークショップ：本邦の看護学が Q 方法論を受容可能か否か討議する | 増田 |
-

【評価】

宮井：参加態度（20%）、資料収集および発表・討議（60%）、レポート（20%）より評価する。

増田：ディスカッションにおけるプレゼンテーションと資料が評価対象となる。

※評価責任者 宮井教授

【教科書】

使用しない（資料を配付する）

【推薦参考図書】

清水裕士、荘島宏二郎「社会心理学のための統計学」誠信書房 2017

尾崎幸謙、荘島宏二郎「パーソナリティ心理学のための統計学」誠信書房 2014

【その他】

スケジュール調整や欠席に伴う再調整の方法については、受講生が協力して可能な限り早く各担当教員と連絡を取ることが望ましい。第 5・6 回、第 8～12 回、第 15 回はプレゼンテーションとディスカッションによる院生主体の講義を行う。

連絡先 : masuda@wakayama-med.ac.jp (増田)
miyain@wakayama-med.ac.jp (宮井)